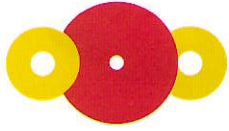


12



美術家
春陽氏

表紙の

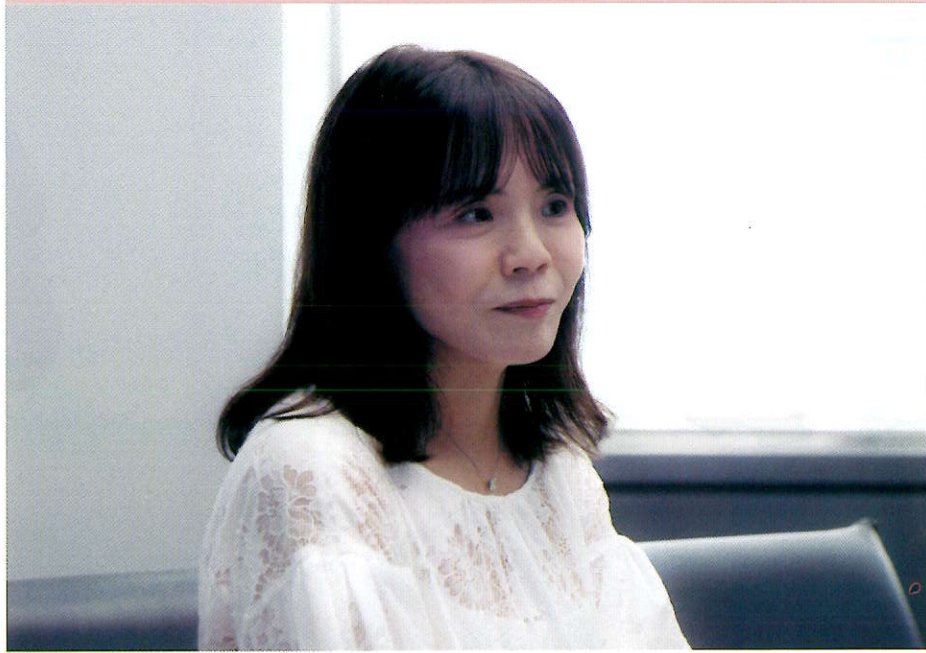


人

取材日時…令和6年9月18日(水)14:00~
取材場所…椋山女学園大学
聞き手…池田幸平 広報副委員長、増田真 広報委員

心象風景を書に映して

美術家
春陽さん



広報誌「ちくさ」12月号 目次

表紙の人	1
春陽さん	
名古屋市内9法人会合同講演会	2
秋川 雅史 氏	
report	4
第35回 千種区民まつり	
女性部会 夏の研修会	
report	6
やさしい法人税セミナー	
第18回 全国女性フォーラム広島大会	
青年部会 情報交換会	
初心者のための源泉所得税研修会	
千石・大和支部 会員交流会	
report	8
正副会長会・理事会・福利厚生制度推進協議会・理事懇談会	
青年部会 定例会	
税連協 役員会	
一社支部 情報交換会	
総務委員会	
女性部会 役員会・絵はがきコンクール優秀作品選考	
女性部会 役員会	
全法連 全国大会・鹿児島大会	
正副会長会・理事会	
春岡支部 勉強会	
税務情報	10
report	12
大規模法人研修会	
青年部会 定例会	
親睦ゴルフ大会	
第38回 青年の集い(福井大会)	

線の美しさや所作に惹かれて…それが原点です。

—書に出会ったきっかけはどんなことでしたか。

私は名古屋生まれで中村区に住んでいました。近所の長門寺というお寺で習字教室があり、私は3歳の時から通うようになりました。幼稚園に上がったならその教室へ習字を学びに行くというのが近所の慣わしというか、自然なことだったのです。最初は母に連れられて行きましたが、そのうちに道具を携えて自分一人で行くようになりました。ほかの習い事もやっていましたが長続きしませんでした。でもこの習字教室だけは自分から進んで通いました。ずっと先生の横で書く様子を眺めていたり、先生の筆の動きを見てどうすればあんなに綺麗な線が書けるのだらうと思いつつ…。それが書との出会いです。

—書が生業になっていった経緯をお聞かせください。

習字を続けていくなかでステップアップしていく訳ですが、先生にも恵まれていたと思います。師範を取るたびに次の先生を紹介して下さったりして、いろんな書を学ばせてもらいました。一緒に学んでいた人たちが何となくフェードアウトしていくなかでも、私は辞めようと思ったことがありませんでした。やはり書が好き、という気持ちが人一倍強かったのだと思います。

私が入学した中村小学校はちょうど創立100周年という年で、記念の小冊子に私の書いた書が選ばれて載ったのです。行く先々で褒められてとても嬉しかったのを今も覚えています。私が書いたものに心を留めてもらった嬉しさと、只々書が好きということが、続けていくことになった根っこだと感じます。

私はこの椋山女学園大学に入りましたが家政学部、就職も一般企業でした。書が仕事になるとは思わず、趣味として続けていたのです。友だちや同級生、周りの人たちは私が書続けていることを知っていて、改まった手紙の書き方を教えて欲しいとか、友だちのお父様の会社の看板の文字を頼まれたり、生まれた子どもの命名の書を頼まれたりしました。ある時、友だちの家の内装リフォームに際してリビングに飾る書を頼まれました。そしてその家のお父様の友だちが東京の画商さんで、リビングの書を見て紹介を頼まれたそうです。その画商さんから海外に日本の作家を紹介するプロジェクトへのお誘いを受けました。それは私の書が生業になる大きなきっかけになったと思います。個展を開くことも名古屋という環境のなかでは難しいことでしたが海外での展開だったので、私の師匠がぜひ挑戦しなさい、と背中を押してくれたのです。またカルチャーセンターの講師にお声かけいただいたりサロンの教室を担当したり…、すべて人から人へ繋がっていったのです。私は2010年に東京へ転居し、それから少しずつ仕事の幅が広がりました。個展を開いたり作品集を出したり、作品を見た企業や団体からお声かけいただいたり、いろんな繋がりのなかで書家としての自覚が私の内に生まれていきました。



●プロフィール
春陽(Shun-Yo)(しゅんよう)

名古屋にて3歳から日本の伝統的な書を学び師範取得。文字を心の表情で書き分けると共に、決まりごとから離れ心象風景を墨にのせ、和紙・墨・胡粉・金・銀など自然の恵から創作活動に励む。独自の抽象芸術を国内外で発表。2010年より活動拠点を東京に。2018年仏・ルーブル美術館での展示を機に美術家へ。企業とSDGsへの取り組み、建築家とのアートコンサルなど多方面との共創にも取り組んでいる。
一般社団法人 日本美術文化協会 理事。美術家。 ホームページ: shun-yo.com

《活動スケジュール》

- 久保京子×春陽作品展「TATANA HARU」
会期:2024年11月14日~2025年1月13日
場所:池袋・リビエラ東京
- 2025年開業ホテル 芝浦・フェアモント東京 客室アート創作
- 春陽 Shun-Yo Exhibition「SUZUKAZE」
会期:2025年9月3日~6日
場所:台湾・台北
- 久保京子×春陽作品展「TATANA HARU」
会期:2025年11月10日~15日
場所:銀座・上田ギャラリー

【お問い合わせ先: shun00yo@gmail.com】



感性は違っても書が醸し出す思いは届きます。

——書は国内と海外ではイメージや概念が違いますか。

日本では床間や欄間に飾るなど、書は様式美として捉えられることが多いと思います。海外での創作の話をしていただいたことがあって、それは台湾だったのですが、家の内装に取り入れたいということでした。飾るのではなく壁に埋め込みたいというものです。内装業の職人さんたちと一緒に作業しました。台湾の職人さんは材料についても詳しく、昔ながらの素朴な技術もしっかりと息づいていることに驚きました。またアメリカで私の作品を扱うアートディーラーのお客様から依頼があったときには、墨や書の道具、和紙など自然の恵みによってアートが生まれることに深く興味を持っていただきました。ほかにもアメリカの会社で社内に多様なSDGsなアートを掲げたいというお話がありました。会社の理念や目標を書の作品として納めたのですが、言葉に想いを込めて掲げるという文化を素晴らしいと評価されました。日本や中国には、そんな言葉の文化が身近にあります。欧米では珍しく感じられるようなのです。でも私の書く書は読むためのものではなく感じてもらえるよう、願いや祈りを込めて創作しています。制約に囚われず自由な思いを表現、想いを伝える、一それが私の書の真髄であるよう心がけています。

——日本の言葉や書の道具などにとても思い入れがあるそうですね。

日本の言葉や文字はとても美しいと思うのです。たとえばひらがなは、かつて女性が漢字を使えなかった時代に、漢字をくずして生まれたという歴史があります。同じように大和ことばは日本に古からある独特の言葉で、日本語の奥深さを感じさせる言葉にほかなりません。言葉から受け取るイメージは日本独特のものが、日本的美意識に基づくものだと思います。こんな感性を大切にしていきたいですね。

書の大切な道具、墨や硯、筆、和紙も然り、すべて自然材料から作られていて、大切に思っています。墨は煤に動物の骨から取った膠を混ぜ、白檀で香りを整えます。墨を硯で磨るときに仄かな香りが漂いますが、それは日本や中国の人しかわからないと言われていました。近年、化学薬品で作られた墨汁やプラスチック製の硯が使われていますが、やはり本物を使って欲しいと思います。本物が醸し出す空気を味わって欲しいのです。一つ興味深いエピソードがあります。吉野の和紙に書いたものをアメリカでご購入くださった方がその作品を、チェリーの香りがするから娘の部屋に飾ったと仰るのです。その和紙は桜の木から作られたものだと説明すると大変喜んでいらっしゃいました。まさか桜の香りがするなんてことはないはずですが、桜の木から作られた和紙から放たれる何かを感じ取ってくださったのだと思いました。後日ご家族で日本を旅された折、吉野の桜を見にいっちゃったそうで、思い出しても嬉しさでいっぱいになります。

日本美術文化を次世代に繋いでいきたいです。

——日本人のDNAだと感じることはありますか。

墨について先ほどお話ししましたが、墨を磨るという行為は、30歳代以上の方なら少なくとも記憶のカケラに残っていると思います。でもそれ以降の世代は本物の道具すら見たことがないという方が多いのです。実は東京で幼稚園の子どもたち向けの書のワークショップを開いたことがあります。小さい子だから大丈夫かなという懸念もあったのですが、子どもたちは墨を飛ばして汚すことも騒ぐこともなく、静かに墨を磨ることに集中していました。ある男の子のお母さんは「うちの子、こんなに長い時間座っていたことは初めてです」と仰っていました。その子に墨を磨る経験がなくても、日本人としてのDNAに組み込まれているのではないかと思います。和紙にしても触ってみれば普通の紙とは何か違うと感じてくれるだろうと思います。子どもたちの書に触れる機会が少しずつでも増えることを願っています。

フランスの調香師から聞いた話ですが、香りを認識するのはDNAとか経験値が関係するそうです。墨を硯で磨って心が落ち着くというのは日本人の特権だと思いますから、そういう機会が増えるといいですね。ただ、少数ではありますが回帰というか、10代20代でも手書きで大切な人への手紙を記す人が増えてきたり、かつての日常的な日本文化を取り戻そうという動きも出てきましたから、期待しています。

——今後の展望や夢をお聞かせください。

自分自身の夢としては、やはり世界的に認められる美術家になることです。ニューヨークのカゴシアンギャラリーで作品が展示されるような…。私が目標としているのは美術家の篠田桃紅さん。憧れでもあり目標でもあります。篠田桃紅さんの出発点は書ですが、絵画や文学など異なる領域と融合した自身の感性を表現、すべての作品に篠田桃紅世界観があらわされています。篠田桃紅さんは東京で画商さんから紹介され、色々とお話ししていただき、美術家になることを勧めてくださった方でもあるのです。2021年3月に107歳でお亡くなりになりましたが、その前年まで新作を書かれていました。私も見習って、これから先、100歳を超えるまで頑張って創作に挑戦していこうと思っています。

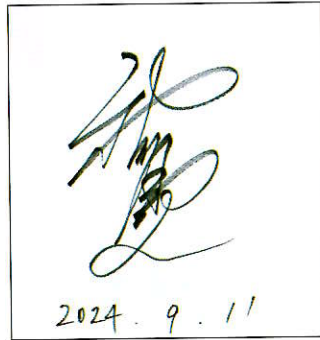
夢でもあり義務でもあると思っているのは、日本美術文化を次世代に継承していくことです。そのために、自分に何ができるかを模索していくつもりです。

母校の椋山女学園では、女性のトータルライフデザインをコンセプトに様々な計画に取り組まれています。卒業生として参加させていただき、何かお役に立てればと思っています。



「夢のある人生」

テノール歌手
秋川 雅史 氏



秋川 雅史 講演会

共催/名古屋市内9法人会

演題 「夢のある人生」
講師 テノール歌手

秋川 雅史 氏



『千の風になって』で知られる秋川雅史氏を招いての講演会。「今日は講演会ということでコンサートではありませんので」と断りながらも、講演中『千の風になって』『慕情』『翼をください』の3曲が披露された。

テノール歌手の"生の歌声"はホールに響き渡り、感動の拍手が鳴り止まなかった。中でも、手話を交えた"千の風"は新鮮で、ひとり一人の心に映像が浮かび上がったような雰囲気は初めての体験となった。

田園が隣り合わせの愛媛県西条市生まれ。世界一流のレコードを聴きテノール歌手の父の指導のもと、地元高校生の音楽コンクールに出場するも二年連続の落選を体験した。落ち込みながらも持ち前のプラス思考で、「自分は父親から譲り受けた未完の楽器ストラディバリウス」と信じて、10年後の28歳で日本クラシック音楽コンクールで最高位を受賞し代表曲「千の風」を手に、念願の紅白出場を果たした。翌年の2007年にはオリコンチャート年間一位を獲得して一躍時の人となった。次の夢は子どもどものころ夢見た世界を代表するオペラ歌手の道。6年後オペラ歌手として舞台上に立ったときの達成感はずよかったと語った。

いろいろな経験をして夢を持つことの意味を考えるようになる。クラシックの音楽が溢れている環境で育ち、歌手になり紅白歌合戦に出場しオペラ歌手として舞台上に立った。「プレッシャーが大きいほどやり甲斐がある。



挑戦し続けなければ生涯幸せな人生が歩めない」と、いつも夢をもったら言葉にして、夢を実現させてきた。43歳のとき木彫刻に興味を持ち、令和3年(2021)には二科展で初入選、4年連続で入選を果たしている。

「声は成長し続ける。生涯現役で究極の歌声を追求し、そして日本一の高さ9メートルの仁王像を彫り上げる」ことを、客席を前に公言した。

「未来の自分はどんな成長できるのかを考え挑戦できる人生はステキ」と、聴衆にも新しい世界への挑戦を語りかけた。大きな勇気を胸に"生涯現役"のエールを得ることができた。

※この記事は令和6年9月11日(水)の講演会のレポートです。
文責/公益社団法人千種法人会

名古屋市内9法人会合同講演会のお知らせ



歴史はおもしろい! ~歴史上の人物を演じた視点から~

俳優
高橋 英樹 氏

日時: 令和7年1月29日(水)
13時30分~15時
場所: Niterra 日本特殊陶業市民会館
フォレストホール

時代劇からMCまで、子供から大人まで、言わずと知れた日本を代表する俳優。1961年、高校在学中に日活ニューフェイス第5期として日活株式会社に入社、「高原児」でデビュー。以後「激流に生きる男」「男の紋章」シリーズ「けんかえれじい」「戦争と人間」「伊豆の踊子」等映画黄金時代に多数出演活躍する。映画のみならず「竜馬がゆく」「国盗り物語」等のNHK大河ドラマ、「桃太郎侍」「三匹が斬る!」「遠山の金さん」等の時代劇、「土曜ワイド劇場 西村京太郎 トラベルミステリー」シリーズといった現代ドラマ、バラエティ、MC等で長年にわたり幅広く第一線で活躍を続けている。また、作家としても活動。雑誌歴史人では「高橋英樹の歴史通」を掲載しており、それらをまとめたものが、「高橋英樹のおもしろ日本史」として出版され、第2回野村胡堂文学賞特別賞を受賞している。

第35回 千種区民まつり

日時:令和6年10月6日(日) 10:00~15:00
会場:平和公園 メタセコイヤ広場

子ども税金クイズでスーパーボールすくい

千種法人会は、平成19年(2007)から千種区民まつりに参加しています。
法人会は恒例の税金クイズとスーパーボールすくいを開催、クイズに答えた子どもたちがボーイを手に、プールに浮かんだ色とりどりのスーパーボールをすくっていました。
天候にも恵まれ、大人気のスーパーボールすくいには長蛇の列ができ、終始大盛況でした。



女性部会 夏の研修会

日時:令和6年9月3日(火) 11:00~14:00
会場:ガーデンレストラン徳川園
講師:千種税務署長 江端 長祐 氏



江端署長



土井副署長



廣瀬副会長



加藤女性部会長





やさしい法人税セミナー

日時:令和6年9月4日(水)~10月2日(水) 13:00~16:30
 開催日程:①9月4日(水) ②9月10日(火) ③9月20日(金)
 ④9月25日(水) ⑤10月2日(水)
 全5回

会場:昭和ビル
 講師:四井 清裕 氏 税理士 元名古屋国税局調査部長

税理士・元名古屋国税局調査部長
 四井 清裕 氏



第18回 全国女性フォーラム 広島大会

日時:令和6年4月18日(木)
 会場:広島グリーンアリーナ
 (記念講演)
 演題:「音楽・師との出会い」～今、我々に求められること～
 講師:下野 竜也 氏(広島交響楽団 桂冠指揮者)



青年部会 情報交換会

税務署長との懇談会 ～税と我々との関わり～
 日時:令和6年9月12日(木) 11:00~13:00
 会場:ホテル ルプラ王山

